

令和5年度 猪名川町立小学校 学習到達度調査の結果について

■ 調査目的

- 猪名川町内の小学校児童の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。

■ 調査内容

- 調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成した。

■ 調査対象

- 猪名川町内の公立小学校5年生の児童 264名
- 調査対象教科は、国語・算数

■ 調査日

2023年4月18日（火）

■ 調査結果

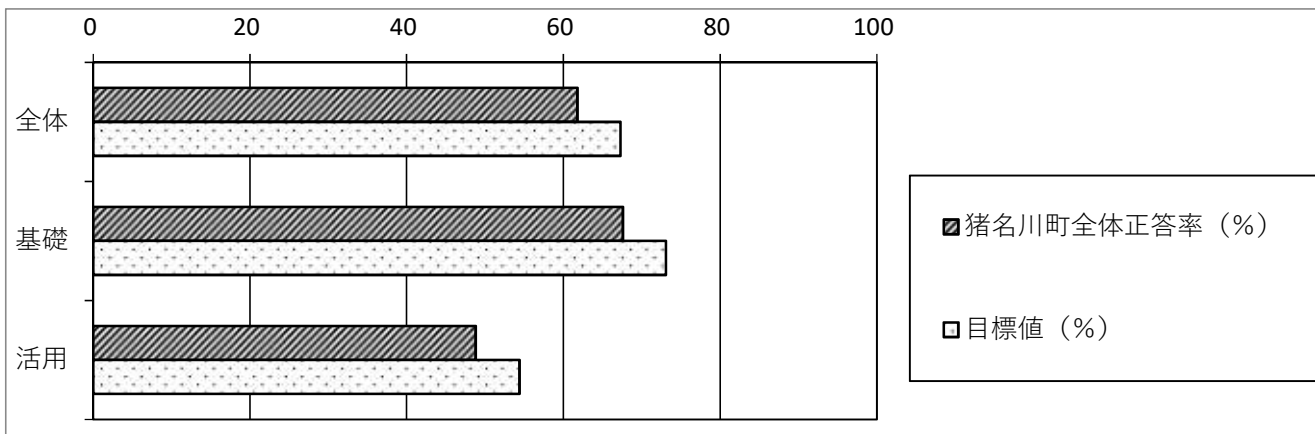
【小学校の調査結果】

| | | 猪名川町全体 正答率 (%) | 目標値 (%) | 目標値との差 | 全国平均 正答率 (%) | 全国との差 |
|-------------|----|----------------------|------------|--------|--------------------|-------|
| 小学校・ 5年生 | 国語 | 61.8 | 67.3 | ▲5.5 | 70.0 | ▲8.2 |
| | 算数 | 54.6 | 64.8 | ▲10.2 | 67.1 | ▲12.5 |

※「目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合。出題の形式や解答の形式により、難易度を算出する。

■小学校5年生 国語
 (1) 基礎・活用正答率

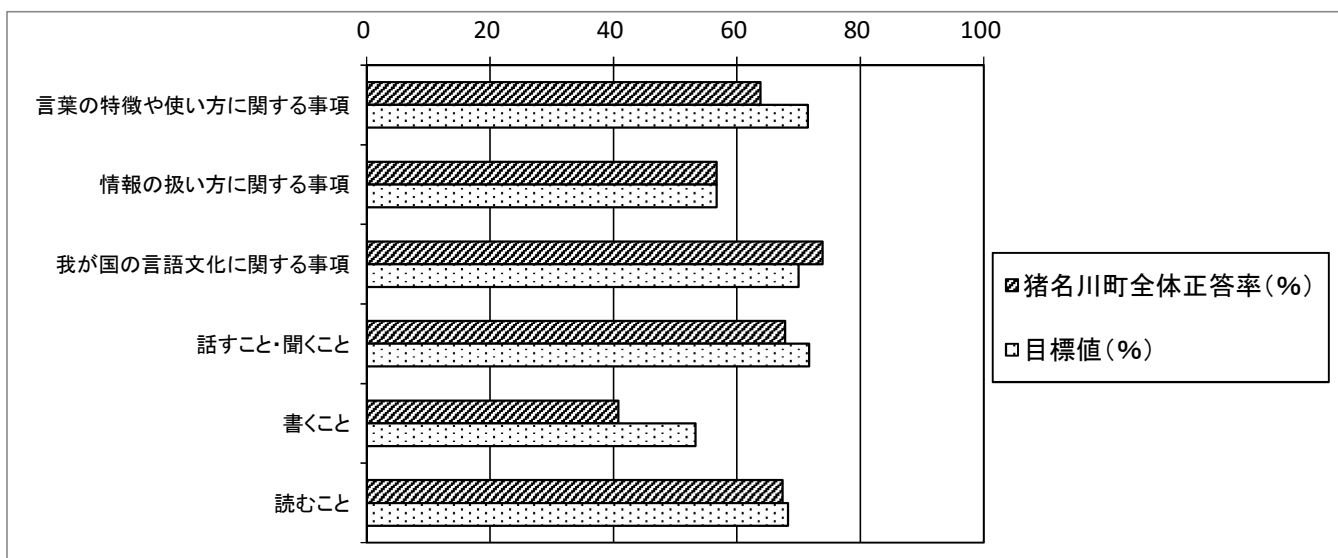
| | 全体 | 基礎 | 活用 |
|---------------|-------|-------|-------|
| 猪名川町全体正答率 (%) | 61.8 | 67.6 | 48.8 |
| 目標値 (%) | 67.3 | 73.1 | 54.4 |
| 目標値との差 | ▲ 5.5 | ▲ 5.5 | ▲ 5.6 |



●基礎・活用別に見ると、基礎問題は67.6%と目標値を5.5ポイント下回り、活用問題は48.8%と目標値を5.6ポイント下回っている。

(2) 領域別正答率

| | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 情報の扱い方に関する事項 | 我が国の言語文化に関する事項 | 話すこと・聞くこと | 書くこと | 読むこと |
|---------------|-----------------|--------------|----------------|-----------|--------|-------|
| 猪名川町全体正答率 (%) | 63.8 | 56.7 | 73.9 | 67.8 | 40.8 | 67.4 |
| 目標値 (%) | 71.5 | 56.7 | 70.0 | 71.7 | 53.3 | 68.3 |
| 目標値との差 | ▲ 7.7 | 0.0 | 3.9 | ▲ 3.9 | ▲ 12.5 | ▲ 0.9 |

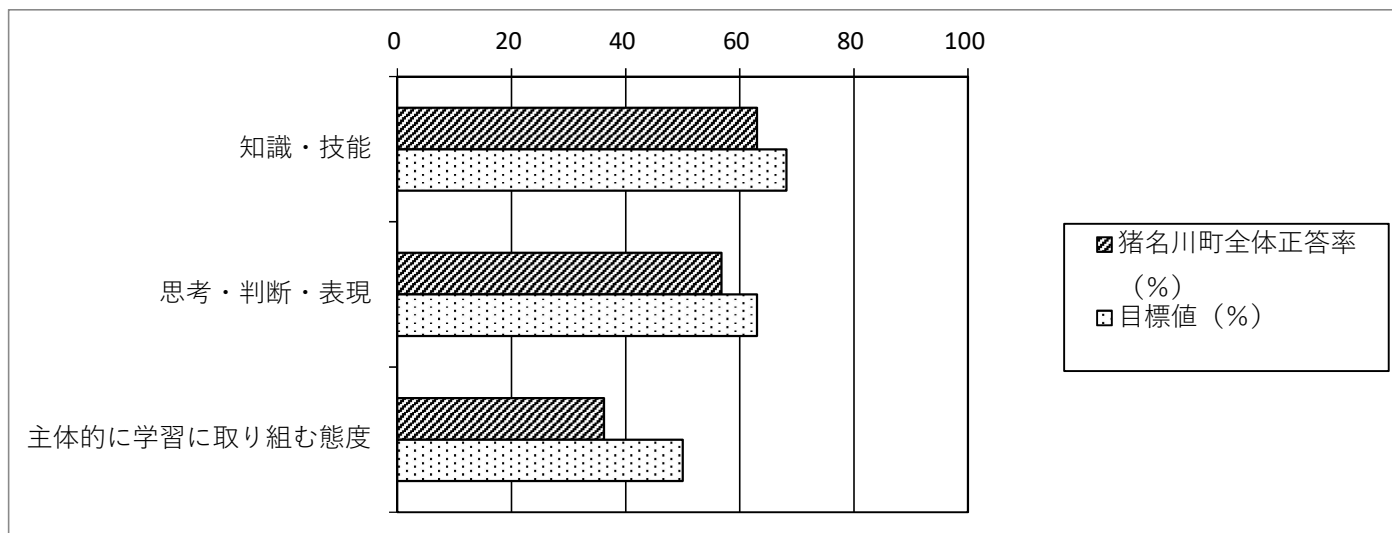


●領域別に見ると、「書くこと」が目標値を12.5ポイント下回っている。

※この数値は小数点以下での誤差が生じる場合があります。

(3) 観点別正答率

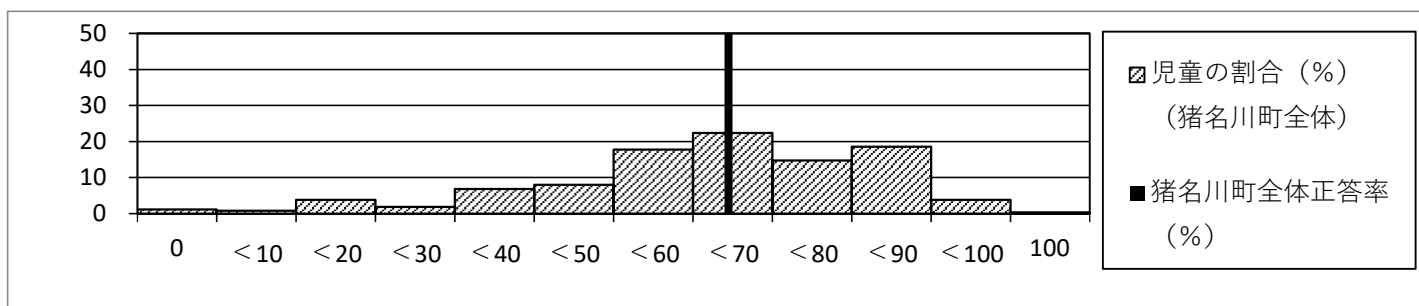
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------------|-------|----------|---------------|
| 猪名川町全体正答率 (%) | 63.0 | 56.8 | 36.2 |
| 目標値 (%) | 68.2 | 63.0 | 50.0 |
| 目標値との差 | ▲ 5.2 | ▲ 6.2 | ▲ 13.8 |



●観点別に見ると「知識・技能」は目標値より5.2ポイント下回り、「思考・判断力・表現」は6.2ポイント「主体的に学習に取り組む態度」は13.8ポイント目標値を下回っている。

(4) 正答率度数分布

| 正答率 (%) | 0 | <10 | <20 | <30 | <40 | <50 | <60 | <70 | <80 | <90 | <100 | 100 |
|-----------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|-----|
| 児童の割合 (%) (猪名川町全体) | 1.1 | 0.8 | 3.8 | 1.9 | 6.8 | 8.0 | 17.8 | 22.3 | 14.8 | 18.6 | 3.8 | 0.4 |



●町全体で正答率80%以上の生徒が22.7%と令和4年度の23.0%から若干減少している。正答率50%未満の生徒は22.3%と令和4年度の14.9%より増加している。

※この数値は小数点以下での誤差が生じる場合があります。

(5) 課題のある小問についての分析

大問2(2)①

【漢字を書く】

| | 猪名川町全体正答率 | 目標値 | 目標値との差 | 全国正答率 | 全国との差 |
|---------|---|------|--------|-------|-------|
| 正答率 (%) | 59.5 | 75.0 | ▲ 15.5 | 63.5 | ▲ 4.0 |
| 出題のねらい | 第4学年に配当されている漢字を正しく書いている。 | | | | |
| 対策 | 日常よく目にする漢字であっても、いざ書くととなると書けないことが多い。国語科の漢字の指導において、日頃から小テストなどを通して習熟を図るとともに、他教科の書く活動などの中でも、既習漢字を使うように指導することが大切である。 | | | | |

大問3(2)

【言葉の学習】

| | 猪名川町全体正答率 | 目標値 | 目標値との差 | 全国正答率 | 全国との差 |
|---------|---|------|--------|-------|-------|
| 正答率 (%) | 10.2 | 40.0 | ▲ 29.8 | 12.8 | ▲ 2.6 |
| 出題のねらい | 連用修飾語について理解している。 | | | | |
| 対策 | どの言葉がどの言葉を詳しく説明しているのかという文の構成について理解することは、文章を書いたり、文章の内容を正しく読み取ったりするために必要である。視覚的に分かりやすい、言葉の関係の図を用いて、どの言葉がどの言葉にかかっているのか、文の構成を理解させることが大切である。また、簡単な文の空欄に、さまざまな修飾語を入れる練習を積ませることも有効である。 | | | | |

大問5(2)

【説明文の内ようを読み取る】

| | 猪名川町全体正答率 | 目標値 | 目標値との差 | 全国正答率 | 全国との差 |
|---------|---|------|--------|-------|-------|
| 正答率 (%) | 60.6 | 70.0 | ▲ 9.4 | 67.6 | ▲ 7.0 |
| 出題のねらい | 叙述を基に段落相互の関係を捉えている。 | | | | |
| 対策 | 段落の役割を理解するためには、①段落ごとの内容を理解しながら、②文章全体で何を主張・説明しているのかを把握した上で、③各段落がその主張・説明のためにどのような働きをしているのかという視点で価値付けをしなければならない。正答できない児童が、①から③のどの段階でつまづいているのかを分析した上で、適切な指導をする必要がある。普段の授業で、段落ごとの内容を簡潔にまとめる習慣、及び接続語や段落の書き出しの一文に注目して段落相互の関係性を確認しながら読み進める習慣を身に付けさせておきたい。 | | | | |

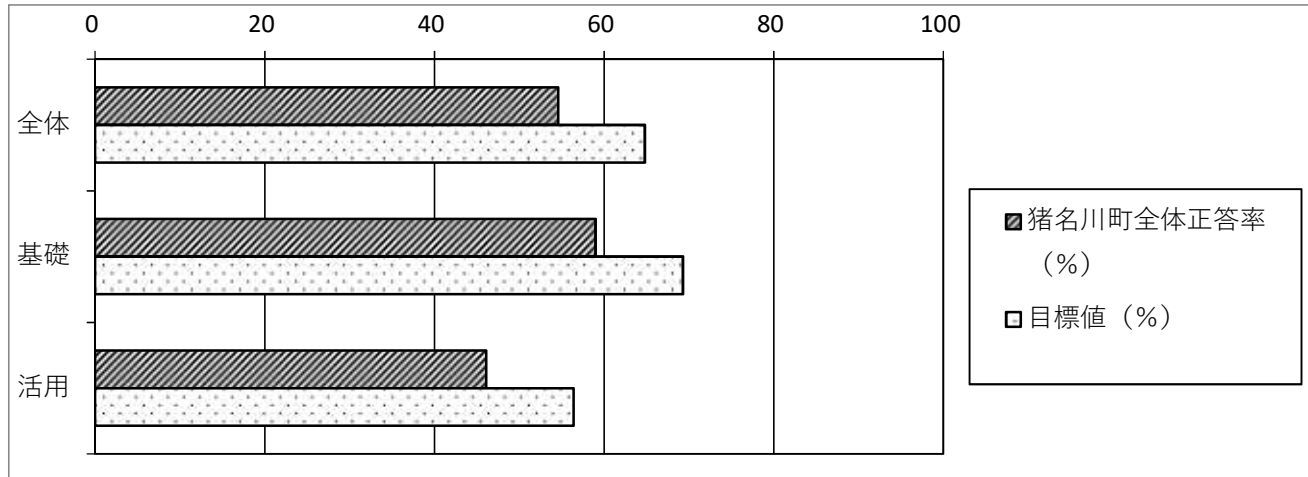
大問7

【文章を書く】

| | 猪名川町全体正答率 | 目標値 | 目標値との差 | 全国正答率 | 全国との差 |
|---------|---|------|--------|-------|--------|
| 正答率 (%) | 36.4 | 65.0 | ▲ 28.6 | 54.5 | ▲ 18.1 |
| 出題のねらい | 指定された長さで文章を書いている。 | | | | |
| 対策 | 問題で定められた7行から9行の間で文章を書くことができるかを見る問題である。登下校の注意点をまとめたプリントに挙げられた二つの注意点のうち、1年生に特に教えたこと、及びそのように考える理由を9行程度で記述するには、初めの2行で自分の意見を述べ、後の5～7行程度でいくつかの例を挙げながら理由を述べる、という簡単な構成を考えてから取り組むように指導するとよい。日頃から構成表を活用し、どのような内容をどのような順で書いていくのか、見通しを立てて記述させることが大切である。 | | | | |

■小学校5年生 算数
 (1) 基礎・活用正答率

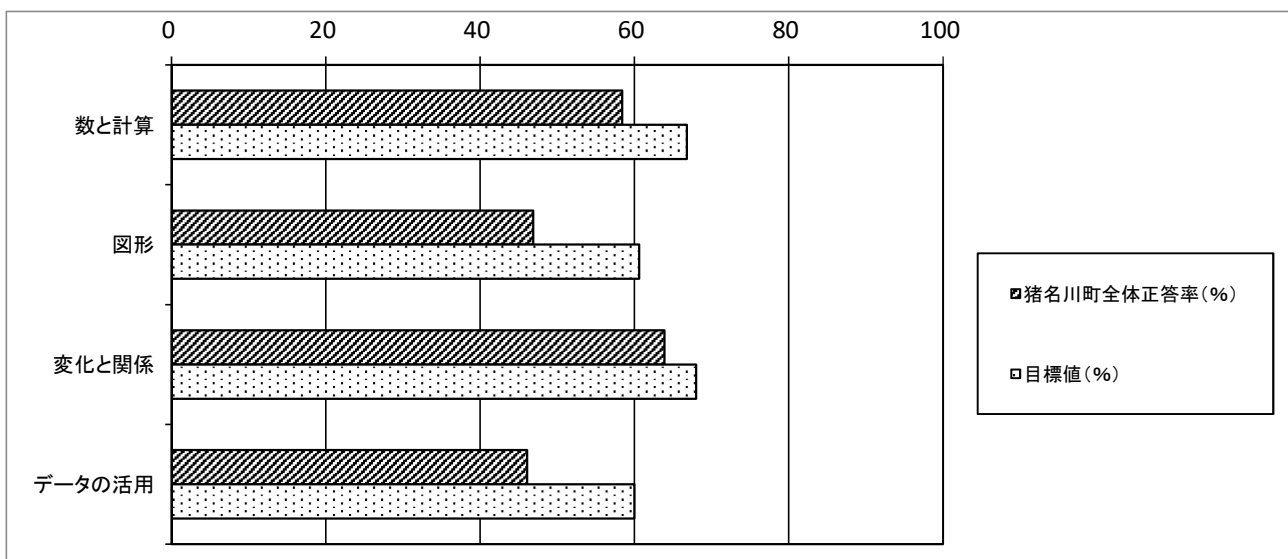
| | 全体 | 基礎 | 活用 |
|---------------|--------|--------|--------|
| 猪名川町全体正答率 (%) | 54.6 | 59.0 | 46.1 |
| 目標値 (%) | 64.8 | 69.3 | 56.4 |
| 目標値との差 | ▲ 10.2 | ▲ 10.3 | ▲ 10.3 |



●基礎・活用別に見ると、基礎問題は59.0%と目標値を10.3ポイント下回り、活用問題は46.1%と目標値を10.3ポイント下回っている。

(2) 領域別正答率

| | 数と計算 | 図形 | 変化と関係 | データの活用 |
|---------------|-------|--------|-------|--------|
| 猪名川町全体正答率 (%) | 58.4 | 46.9 | 63.9 | 46.1 |
| 目標値 (%) | 66.8 | 60.6 | 68.0 | 60.0 |
| 目標値との差 | ▲ 8.4 | ▲ 13.7 | ▲ 4.1 | ▲ 13.9 |

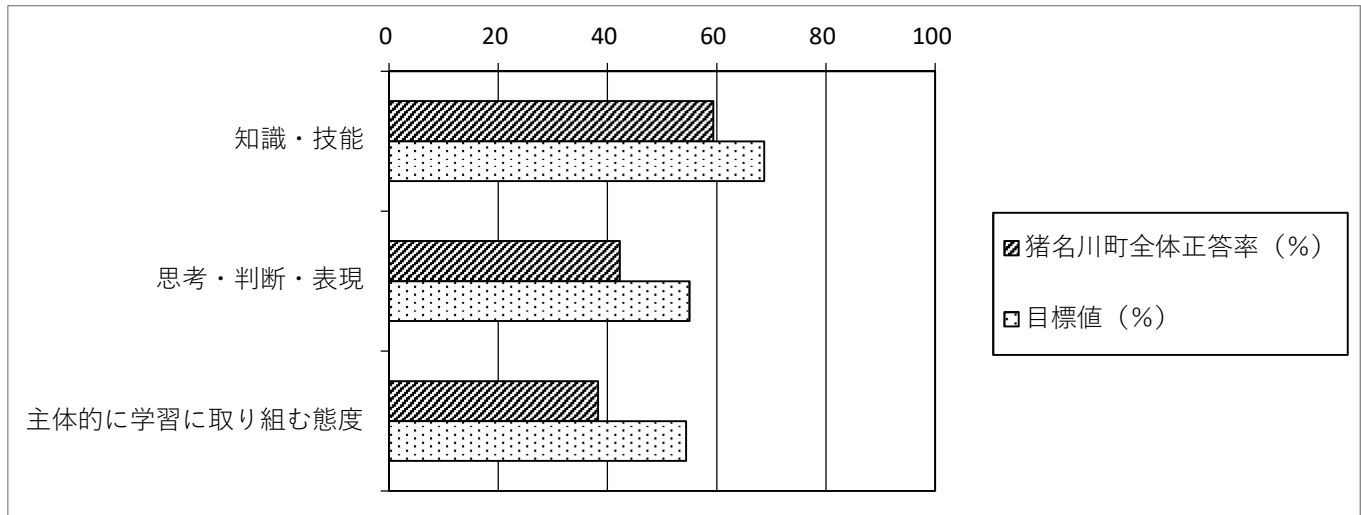


●領域別に見ると、すべての項目で目標値を下回っている。

※この数値は小数点以下での誤差が生じる場合があります。

(3) 観点別正答率

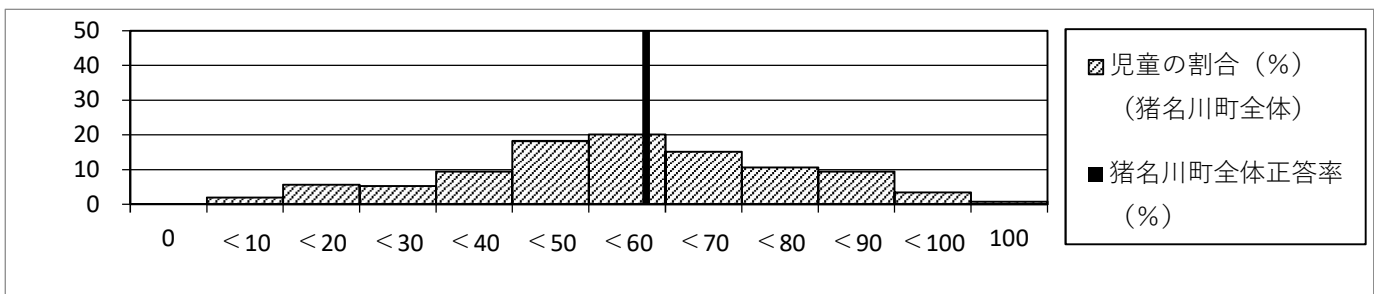
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------------|-------|----------|---------------|
| 猪名川町全体正答率 (%) | 59.4 | 42.3 | 38.3 |
| 目標値 (%) | 68.7 | 55.0 | 54.4 |
| 目標値との差 | ▲ 9.3 | ▲ 12.7 | ▲ 16.1 |



●観点別に見ると「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」すべての項目で目標値を下回っている。

(4) 正答率度数分布

| 正答率 (%) | 0 | <10 | <20 | <30 | <40 | <50 | <60 | <70 | <80 | <90 | <100 | 100 |
|-----------------------|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|-----|------|-----|
| 児童の割合 (%) (猪名川町全体) | 0.0 | 1.9 | 5.7 | 5.3 | 9.5 | 18.2 | 20.1 | 15.2 | 10.6 | 9.5 | 3.4 | 0.8 |



●町全体で正答率80%以上の生徒が13.6%と令和4年度の14.5%より減少し、正答率50%未満の生徒は40.5%と令和4年度の29.1%より増加している。

※この数値は小数点以下での誤差が生じる場合があります。

(5) 課題のある小問についての分析

大問6(2)

【小数】

| | 猪名川町全体正答率 | 目標値 | 目標値との差 | 全国正答率 | 全国との差 |
|---------|---|------|--------|-------|--------|
| 正答率 (%) | 43.6 | 65.0 | ▲ 21.4 | 64.4 | ▲ 20.8 |
| 出題のねらい | 小数第一位—小数第二位の計算ができる。 | | | | |
| 対策 | 小数は整数と同じ十進構造になっているので、小数の計算は、基本的に整数の計算と同じように考えてよい。位をそろえて計算することも整数の計算と同じである。本問においても、位をそろえて筆算を行う必要がある。このような筆算をするときに、位をずらして計算してしまう児童がいる。これは、整数の計算で末尾をそろえて計算する習慣が身に付いているために生じる誤りとも考えられる。位をそろえるためには、小数点の位置をそろえ、51.6を51.60として計算する手立てが有効であることを理解させたい。 | | | | |

大問14

【いろいろな形】

| | 猪名川町全体正答率 | 目標値 | 目標値との差 | 全国正答率 | 全国との差 |
|---------|--|------|--------|-------|--------|
| 正答率 (%) | 42.4 | 70.0 | ▲ 27.6 | 70.9 | ▲ 28.5 |
| 出題のねらい | ひし形の作図ができる。 | | | | |
| 対策 | ひし形は、4辺の長さが等しく、向かい合った2組の辺がそれぞれ平行であること、向かい合った角の大きさが等しいこと、2本の対角線が垂直に交わり互いに他を二等分することなどを理解させたい。この性質が理解できていれば、既にかかれている2辺に続けて正しい辺をかくことができるだろう。図形の指導においては、意味や性質、作図の学習だけではなく、学習した図形を切り取らせたり、敷き詰めさせたりするなど、操作的活動を取り入れることが大切である。そうした活動を通して、図形への理解を深めさせていく必要がある。 | | | | |

大問16(1)

【折れ線グラフと表】

| | 猪名川町全体正答率 | 目標値 | 目標値との差 | 全国正答率 | 全国との差 |
|---------|---|------|--------|-------|--------|
| 正答率 (%) | 48.1 | 65.0 | ▲ 16.9 | 65.6 | ▲ 17.5 |
| 出題のねらい | 折れ線グラフを読み取ることができる。 | | | | |
| 対策 | 1年間の気温の変わり方を表した折れ線グラフを見て、上がり方が一番大きい箇所を答える問題である。誤答の原因としては、目盛りを読まずに見ただけで判断したことなどが考えられる。折れ線グラフには、その傾きで変わり方の様子が分かるというよさがあるが、実際にどのくらい変わったのかを調べるためには、目盛りを読む必要がある。どのくらい変わったのかという発問を取り入れ、児童に確かめさせることが大切である。 | | | | |

大問18(3)

【億と兆・がい数の表し方】

| | 猪名川町全体正答率 | 目標値 | 目標値との差 | 全国正答率 | 全国との差 |
|---------|---|------|--------|-------|--------|
| 正答率 (%) | 15.9 | 35.0 | ▲ 19.1 | 38.7 | ▲ 22.8 |
| 出題のねらい | 切り捨てて計算した結果が目的に合う理由を説明している。 | | | | |
| 対策 | 四捨五入などを形式的に指導するだけではなく、概数を用いることで、より能率的に処理できるよさに気付かせるように指導する必要がある。その際、目的に応じて、切り上げがよい場合、切り捨てがよい場合、四捨五入がよい場合がある。例えば、1000円で買うことができるかを見積もるときには切り上げ、1000円以上になるかを見積もるときには切り捨て、などである。切り上げるのか、切り捨てるのか、四捨五入するのか、どの位までの概数にするのかということを見積もる場面や、それが適切であるかを振り返る場面を設けることが大切である。 | | | | |